

市政懇談会報告

2月1日から市内5会場にて『自立のまちづくりに向けて』をテーマに市政懇談会が開催され、市長から諏訪地域市町村合併協議終了の経過を報告し、今後のまちづくりについて懇談を行いました。

今後は合併せずに自立のまちづくりを推進しなければなりません。このため、市民のみなさんと行政が協働して市民総参加で、この難局を乗り切るための「行財政改革プラン」を策定していきます。この改革プランも含めて懇談の中でまちづくりへのご意見やご提言、またご質問をいただきましたので、主な内容をご紹介します。

■市民のみなさんの意見

■市回答

合併について

■合併できなかったことの責任についてどう感じているのか。

■責任を感じている。合併特例債を得られず、まちづくりへの影響は非常に大きい。だからこそ行財政改革プラン策定市民会議を立ち上げ、市民の声を反映して今後の進むべき方向性を出していく。

■今回合併できずに残念だ。特例債はなくてもあきらめず、今後も合併の努力をして欲しい。



▲カノラホール

■住民投票などが行われなかったが、もっと住民の意思を尊重すべきではないか。

■住民投票は議会も行政も判断つかない時の最後の手段として行うべきだと今でも思っている。

行財政改革プランに関連して

■行財政改革プラン策定市民会議は大きな発言権を持つことになる。何らかのチェック機能を考えしてほしい。

■チェック機能は議会に求めている。

■議員、職員の人員、給与・報酬について再考を。

■自立のため、組織を見直して簡素、合理化を図り、職員の削減計画も検討する。民間でできるものは逐次、民間にお願いする。

■合併がなくなり、財政が厳しくなるが、独自性のあるまちづくりについてどう考えているのか。

■6年ほど前からスーパーデバイス産地形成、超精密加工技術のまちづくりに挑戦してきた。これが直球部分のまちづくりであり、変化球としてバレーボール、スケートのまちづくり、武井武雄のデザインやポリシーを展開する童画のまちづくり、食文化ではうなぎのまちとして寒の土用の丑の日を広めている。



▲長地支所

■意見を言うておしまいになる1回だけの市民会議ではなく、継続する市民会議の設置を。福祉、環境、子育てなど生活の中にテーマはたくさんある。市民が行政に対して意見を言う場を増やすことが大切だ。

■市民の声を市政に反映させるために、市政懇談会やアイデアメール、パブリックコメントを行っている。また、継続して市民の声を吸い上げる場を検討していく。

■行財政改革プラン策定市民会議はテーマが大きいので、方針を決



め、細かいテーマの検討を市民に任せたらどうか。

■市民会議は初めて立ち上げる会議であり、そのためにもパブリックコメントをお願いする。

■行政主導でなく、これからは私たち市民が主体的に行動していくことが必要だ。

■子育て支援をし、子供を増やすことにしっかり予算配分をして欲しい。少ない収入で課題を解決するには、何が必要で何を切り捨てねばならないのか、市民に十分説明して、重点的に執行して欲しい。

■行政の施策は総花的になりがちだが、メリハリのある集中的な施策を考えたい。

■収入が減っていく中、湖畔若宮区画整理事業や大学誘致といった

大型事業は見直すべきでは。

■市はこれらの事業が位置づけられた第三次総合計画に従って計画行政を行っている。今後どうするかは当然検討すべきだが、今の段階でやめようとは考えていない。現在よければという考えに陥りがちだが、次世代に残す岡谷の形を提案しなければならない。

■とにかく市にお金がないことがわかった。市民一人ひとりが節約し、衛生自治会などそれぞれの団体で無駄をなくすよう考えなければならぬ。自分たちでできることから、という雰囲気をつくっていったらどうか。

■大変心強い。行政も甘えることなくスムーズな活動ができるよう配慮したい。



▲川岸支所

工業の振興について

■大きな企業が岡谷から撤退してしまったが。

■大きな原因は岡谷の土地が高く、面積が足りないことである。撤退する企業には岡谷のあらゆる土地を紹介したが、標高など条件が合わなかった。漫然と見送ったわけではない。

■撤退後の跡地に商業施設ができるということだが、ものづくりのまちにふさわしい企業を誘致すべきでは。

■岡谷には、どのような企業が来ても対応できる技術力があるので、ぜひものづくりの企業を誘致して欲しいと地主に訴えてきた。しかし、あくまで民間経済活動のなかで行われるものであり、行政の及ばないこともある。

■現在の産業振興策について伺いたい。

■工業の量産体制の主なものはすでに海外にシフトしている。数年前から海外ではまねできない超精密加工、ナノテクノロジーの集積地を目指しており、現在市内40社ほどがこの技術を保有している。また、産学連携として、6つの大学と連携してあらゆる要望に対応できる体制をとっている。

市政全般について

■市の懇談会に手話通訳があれば耳の不自由な人も出てくる。また、婦人も参加しやすいように昼間の開催も考えて欲しい。

(※23日午後1時30分より市政懇談会を追加開催した。また、今後の市政懇談会で手話通訳を検討する。)

■桃園、観音保育園の跡地を区に払い下げてもらえないか。

■区に新たに発生した事由に目を向けられないわけではないが、新保育園建設のために、現保育園は売却するという計画である。

■急速に財政悪化が進んでいる。改革もそれに遅れないように。

■行政のスピードアップは市長の公約でもある。今できることはすぐにやる、時間をかけてもやり遂げることは必ずやり遂げる。



▲湊支所

家庭でできる防災対策

岡谷市では県と協力して「す



耐震診断を

受けましょう!

阪神淡路大震災では、死者の約8割が家屋の倒壊などによる圧迫・窒息死でした。また、倒壊した家屋の多くが昭和56年以前の古い建築基準で建てられた建物ということが分かっています。このようなことを教訓にして、まずは住んでいる家屋の耐震性を確認しましょう。



〔阪神・淡路大震災（神戸市中央区）〕

家の中の安全を

確保しましょう!

地震のときは家具やテレビが倒れたり、避難口をふさいだりする危険もありますので、壁に固定したり飛散



まいの安全『どうかい』防止対策事業」により、耐震診断や耐震補強工事費の助成を行っていますので、積極的に活用してください。

(詳しくは、都市計画課建築指導(内線1372)まで)

防止措置などの安全対策が必要で

- ◆タンス・本棚・食器棚・テレビなどはL字金具や支え棒、粘着マットなどで柱や壁に固定する。また、上に水槽や花瓶など重い物を置かない。
- ◆窓ガラスには飛散防止フィルムを張る。
- ◆カーテンは防災加工されたものを使う。
- ◆ストープは対震自動消火機能のあるものを使用するなど。

ポイント情報

「配置を工夫して安全確保！」

夜中などの寝ているときに家具が倒れると大変危険です。寝室、子ども・高齢者・病人のいる部屋には、なるべく大きな家具などは置かないようにしましょう。また、避難の妨げになるので出入口や通路には物を置かないように!



日頃の備え できていますか?

昨年は、梅雨前線による新潟・福井豪雨、観測史上最高となる台風の上陸による被害、さらには新潟県中越地震の発生など、考えられないほど多くの自然災害が日本列島を襲いました。

岡谷市を含む諏訪地域も東海地震や糸魚川-静岡構造線による地震の危険性が叫ばれています。

このような中、岡谷市では市民のみなさんと一緒に防災対策を進めるため、各区自主防災会への支援、防災体験パークや出前講座の開催、ホームページ(岡谷市防災BOX)での情報提供など様々な取り組みを行っています。また、広報おかやの紙面でも「防災情報おかや」と題し、みなさんに知って頂きたいことや身近な防災情報などをお伝えしていきます。ご家庭の防災対策の参考にしてください。

自然災害は未然に防げませんが、日ごろの取り組みにより被害を少なくすることは可能です。ぜひ、防災対策を生活の一部に取り入れ、できることから積極的に取り組みましょう!

非常持出品 (災害発生時に持ち出す物。あまり多くしないで、すぐに取り出せる場所に保管。)

懐中電灯

できれば一人一つ用意。予備の電池と電球も忘れずに。



携帯ラジオ

小型で軽く、AMとFM両方聞けるものを用意。予備の電池も忘れずに。



非常食・水

カンパンや缶詰など、火を通さずに食べられるものを。水はペットボトルが便利。



貴重品

現金、通帳、印鑑、健康保険証、住民票のコピーなど。



救急医薬品

傷薬、ばんそうこう、解熱剤、かぜ薬、胃腸薬、目薬など。常備薬があれば忘れず用意。



その他

ヘルメット、下着、タオル、軍手、ライター、ナイフ、ビニール袋、ティッシュ、ビニールシートなど。



非常備蓄品 (災害発生後の数日間を支える生活物資。)

食品

缶詰やレトルト食品、ドライフーズや栄養補助食品、調味料など。食料は非常食3日分を含む数日分を備蓄しておく。

水

飲料水は大人一人当たり、1日3ℓが目安。少なくとも3日分の用意を。ペットボトルのほか、ポリタンクにも貯めておくと便利。

燃料・その他

卓上コンロや固形燃料、予備のガスボンベのほか、毛布、寝袋、洗面用具、ラップ、使い捨てカイロ、ロープ、パール・スコップなどの工具、マスク、トイレットペーパー、予備のメガネ、バイク、自転車、ドライシャンプーなどがあると便利。



非常持出品・非常備蓄品を準備しましょう!

日ごろから避難するときに持ち出す「非常持出品」や避難から復旧までの数日間の生活物資となる「非常備蓄品」を準備しておきましょう。

準備しておかないと

どうなる??

大災害が発生した場合、水道などが使用できなくなったり、道路の破損などで救済活動がすぐに行えない可能性があります。数日間は自足できるように準備をしておきましょう。

※乳幼児や妊婦および要介護者等のいる家庭では、ミルク・哺乳ビン・母子手帳・障害者手帳・補助具など、それぞれ事情に合わせて準備しておきましょう。



ラポイント情報

「定期的に中味のチェックを！」

非常持出品・非常備蓄品は使うときに支障が無いように、定期的な点検が必要です。賞味期限・使用期限が迫ったものから順に入れ替えましょう。食品は缶詰など、普段から良く食べているものにするに入れ替えがスムーズにできます。

◇この「防災情報おかや」は岡谷市ホームページの「岡谷市防災BOX」へも掲載しています。「防災BOX」には他の防災情報も掲載されていますので、ぜひご覧ください。



防災体験パーク 防災グッズコーナーのようす (1月16日)